

## 平成27年度 市民意識調査 反映状況

|   | 調査項目（実施課）                 | 反映状況   |
|---|---------------------------|--|
| 1 | 市民満足度調査<br>（企画課・広報課）      | <p>市民満足度調査の設問は、第3次静岡市総合計画に基づく本市の政策に対する市民満足度を測る項目であり、平成27年度においては、前期実施計画の改定に際し参考として活用した。</p> <p>また、一部の調査項目は、総合計画の政策施策の評価項目として設定されており、今後の政策施策評価において活用する予定である。</p>   |
| 2 | 共生社会について<br>（男女参画・多文化共生課） | <p>(1) 多文化共生について<br/>「多文化共生」が重要だと思っている市民の割合は、多文化共生推進計画の成果指標の目標値を設定するために活用した。</p> <p>多文化共生を進めていくための外国人住民に期待する施策として、「地域社会などのルールの周知」が62.6%、「日本語や日本の文化・習慣を学ぶ機会の提供」が62.3%だったことから、平成28年度も引き続き、外国人住民に対し、地域社会のルールなどを様々な媒体を活用して周知するとともに、日本語などを学ぶ機会の提供に努めていく。</p> <p>また、「外国人住民との交流機会の充実」が55.5%、「様々な国の文化・習慣などを学ぶ機会の提供」が54.7%だったことから、平成28年度も引き続き、外国人と気軽に交流できるイベントや世界の文化・習慣などを学ぶ講座の開催に努めていく。</p> <p>(2) 男女共同参画について<br/>配偶者からの暴力に関する相談窓口として、市役所（区役所）と答えた市民の割合が32.7%、夫婦間における「足で蹴る」、「平手で打つ」、「殴るふりをして脅す」といった行為を暴力と認識する市民の割合がそれぞれ78.2%、74.0%、59.0%であった。</p> <p>その数値を第3次静岡市男女共同参画行動計画における成果指標作成のための基礎数値として採用した。</p> |
| 3 | 共生社会について<br>（市民自治推進課）     | <p>第3次市民活動促進基本計画の指標値のうち、『市民活動に「参加したことがある人」「参加したいと思う人」の割合』を設定する根拠として活用した。</p> <p>具体的には、「市民参加について」のうち、「あなたは、市民活動に参加したことがありますか」という問いに対し、「市民活動に参加したことがある」と答えた市民（30.7%）、「参加したことがないと答えた市民」（67.4%）、また、「市民活動に参加したことがないと答えた方のうち、「参加する予定がある」と答えた市民（0.7%）、「機会があれば参加してみたい」と答えた市民（43.0%）の数値を参考とし、指標の平成34年度の目標値を設定した。</p>  |
| 4 | 人権について<br>（福祉総務課）         | <p>人権意識を高めるための取組として、「新聞・テレビ・ラジオ・インターネットなどを通じた啓発を行う」（55.9%）ことや、「市の広報紙などを通じた啓発を行う」（40.3%）ことが必要と考える人が多かった。</p> <p>そのため、平成28年度においても、6月1日の人権擁護委員の日の人権啓発についてラジオ放送事業を実施するとともに、12月の人権週間に合わせ市広報紙に人権に関する記事を掲載する予定である。</p>  |

|   | 調査項目（実施課）               | 反映状況  |
|---|-------------------------|---|
| 5 | 生活サービス施設について<br>（都市計画課） | <p>各種生活サービス施設へのアクセスについて、「現在の所要時間」と「希望する所要時間」の差をみてみると、スーパーなど生活に身近な施設はその差が小さい一方で、総合病院など広域から人が集まる施設はその差が大きかった。（例：スーパー2.1分、総合病院9.0分）このことから、広域から人が集まる施設に対して、誰もがアクセスしやすい都市づくりが求められていることが分かった。</p> <p>この結果を踏まえ、総合病院などを集約化拠点形成区域における誘導施設として定めた「静岡市立地適正化計画」を、平成29年3月31日に策定・公表した。</p> <p>【参考】「静岡市立地適正化計画」の策定・公表について<br/> <a href="http://www.city.shizuoka.jp/299_000040.html">http://www.city.shizuoka.jp/299_000040.html</a>”</p>   |
| 6 | 市政PR事業について<br>（広報課）     | <p>静岡市の情報に市民が接触する機会は、『広報しずおか「静岡気分」』49.8%が一番多い。</p> <p>さらに、静岡市の情報を知りたい時に市民が入手する方法は、『広報しずおか「静岡気分」』34.2%、「市のホームページ」23.5%となっていることから、広報紙は市の情報を入手する手段としては重要なツールであることがわかる。</p> <p>そのため、市民の皆さんによりわかりやすく情報提供できるよう、今まで以上に広報紙の内容を充実し、レイアウトを工夫していく。</p> <p>また、静岡市の情報の入手方法について、50代以上の人は「広報紙から入手する」と答えた人が一番多く30%以上となっている。一方、40代以下の人は「ホームページから入手する」と答えた人が40%以上で、「広報紙から入手する」と答えた人よりも多いことから、40代以下の若い世代にも広報紙を読んでもらえるよう、紙面のレイアウトの工夫や、AR（拡張現実）を活用したメディアミックスによる情報発信を実施していく。（ARは平成28年度中3～4回実施予定）</p> <p>そのほか、広報紙のデータを市のホームページだけでなく、電子ブックとして専用サイトへも掲載している。</p> <p>今後の実施予定として、市から発信する情報のうち特に充実して欲しい『市からの発信情報』が、「観光・イベント」19.3%、「防災」16.2%、「福祉・介護」14.0%であったため、市民の関心が高い情報をよりわかりやすく広報紙に掲載していく。</p> <p>関心の高かった分野について、平成28年度の広報紙では「観光・イベント」を毎月掲載するとともに7月号に夏休みのイベントを掲載、「防災」を9月号に特集、「福祉・介護」を10月・11月・29年3月に特集する予定としている。</p> |